

令和4年12月21日

第 156 号

発行：福住地区まちづくり協議会
〒669-2513 丹波篠山市福住 342
TEL&FAX：079-557-0116
メール：fk.machikyo@gmail.com
http://fukusumiweb.tanbasasayama.com/

丹波篠山・福の住む里

福住さとねっと

Fukusumi Sato Net



旧国鉄篠山線「福住駅」の看板を設置しました！

住民の声もあり、旧国鉄篠山線「福住駅」の啓発・表示と福住を訪れる人の説明の為に、旧JA福住支所横に説明表示看板を設置しました。

長年、福住地区に住んでおられる方なら、「福住駅」があったのをご存じのことと思います。「福住駅」は旧国鉄篠山線の終着駅

でした。篠山線は終戦間近の昭和19年に、溶鉱炉や銑鉄を作るために多紀郡内で産出される矽石やマンガンを移送するために軍部の命令で敷設されました。

現在の旧JA福住支所辺りに駅舎があり、北側の国道372号線に線路やホームがありました。

園部駅まで延ばして京都府とつながる計画もありましたが、昭和47年3月には存続運動もむなしく赤字路線のため、バス路線を充実させるといふ条件で廃止されました。

篠山線のジーゼル気動車とともに活気のあった頃の福住のまちを思い出の方も多いと思います。

「福住」にお迎えしました！ 移住者のご紹介

みなさんもご存知だと思いますが、9月に福住地区で「薪窯ピザ&ジェラートオモト」をオープンされた尾本さんから寄稿いただきました

ましたのでご紹介します。以下、尾本さんからのメッセージです！

尾本 直久
出身地 大阪
移住 7年目



「薪窯ピザ&ジェラートオモト」の尾本直久さん

古民家でピザ屋をしたいと思い、色々な古民家を探しているとき福住の古民家に出逢いました。町家の雰囲気と裏の田園風景の感じが気に入りました。

とは云うものの老朽化も進んでいて片付けから内装出来る事は自分でやりましたのでオープンまで丸5年掛かりました。作業中、福住の住人の

方々に声をかけて頂いたり力を貸して頂いてとても励みになりました。これからは、微力ですが福住が益々繁栄していける様、力になりたいです。

【丹波篠山市消防団 年末警戒】

とき：12月28日（水）～30日（金）
午後8時～午前0時
※午後8時にサイレン吹鳴します！

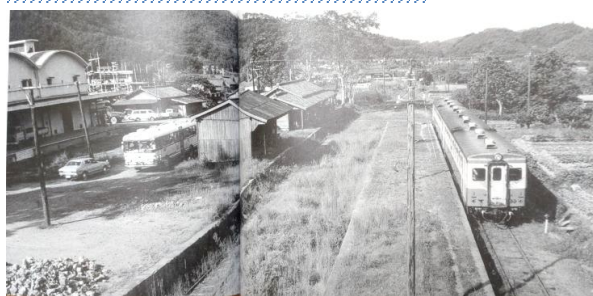
NPO 法人 SHUKUBA 「米粉の日」

SHUKUBA 加工所 daidocolab. (だいでこらぼ) では、ご好評いただいております製粉機を使った米粉加工を承っております。(1kg から) 希望者の方には真空パックにてお渡ししております。

- 加工賃：1kgあたり 420円
- 申し込み：ご希望の方は加工所営業時間に電話（080-9534-4275）まで
- 営業時間：月・水・木・金曜日の9時～17時

「米粉の日」を毎月第4月曜に定期開催します！

12月は26日（月）、1月は30日（月）開催予定です。



「国鉄・JRの廃線アルバム（近畿編）」 牧野和人著より掲載



一本杉販売所だより

みなさん、こんにちは！
今日朝は、めちゃくちゃ寒かったけど、今は快晴です。
いよいよ12月に入り慌ただしくなってきました。
黒豆も寒中の中収穫が進んでいますよ！
丹波篠山は寒くなってきましたので、暖かくしてお越してください。



「森田家古文書から見る安口村の諸事情 ～亀山藩と篠山藩の藩境で～」

= SHUKUBA古文書講座 =



12月2日(金)、本年度第1回目の古文書講座を開催しました。今回は、安口の森田家から提供された古文書6点をテキストとして取り上げていただきました。

はじめは、古文書を提供していただいた森田家の現当主である森田栄さんより「丹波国安口村森田家古文書から見る年貢等の農民負担について」と題し、「亀山藩年貢免定(弘化2年〈1845年〉)」「篠山藩年貢免定(弘化2年)」「亀山藩御物成之通(弘化2年)」「他村への人足免除の願いに対する亀山藩からの回答書(明和5年〈1768年〉)」「亀山藩主から、夫役に代えて納める税免除の御達し(慶応3年〈1867年〉)」の5点の古文書の紹介と説明がありました。「亀山藩の年貢免定」は、弘化2年〈1845年〉の年貢免定(納税通知書)で、安口村石高302石6斗7升に対し、年貢(税)は、126石8斗7升と他役米等付加税を加算して合計147石9斗2升1合を納めており、年貢率(税率)は48.8%となるとのこと。それに対して、篠山藩の年貢免定は、安口村石高7石3升に対し、年貢(税)3石3斗4升とその他役米等付加税を加算して、合計15石5斗9升6勺であり、年貢率(税)は221.7%となるとのこと。安口村は、亀山藩領であるので、年貢は亀山藩に納めるのは当然として、安口村土地に川原村が開拓した土地を村高に組み入れる「越高」というものがあり、藩境より安口村側に川原村の土地が入り込んでいる「地処」として、「亀山領安口村ヨリ越高7石3斗」と記述があると説明されました。また、亀山領の五箇村(安口、西野々、下原山、中原山、奥原山)が他村への井関普請(工事)の人夫要請に対して免除願いを出して認められた事や公儀の伝馬役を勤めたことで、夫銀令が免除されたことの古文書の解説・説明もありました。

次に、「森田家古文書に見る『安口村と西野々村の山林利用』」について、お馴染み神戸大学大学院特命助教松本充弘先生から、「安口村と西野々村による山林利用」についての古文書(安永4年〈1775年〉)の解説と説明をしていただきました。

肥草山の利用につき、両村の争論が起き、双方を呼び出して吟味を行うことになり、安口村の主張は、「立金山の山道を修繕する際、西野々村から人足を出していない、山の利用の際、安口村人へこのことを知らせていない」とし、西野々村の反論は、「人足は出していないが、氏神の馬場道普請の折、安口村から人足を徴発していない」とした。これらの再反論を両村が繰り返す中で、7月3日、西野々村が大勢で実力行使に出たが、安口村が牛の鞍・鎌を取上げて、西野々村を追い返した。翌4日は、西野々村から百姓が大挙して山へ入り込んで、鞍と鎌を取り返して持ち帰ったという内容でした。山論の特色は、入会山の利用権をめぐる争論である一方、双方の実力行使を伴っている点、安口村が自村への入会山への帰属を主張する「境論争」的な色合いを帯びていく点が特徴であると解説されました。

今回の講座は、安口村森田家から提供された古文書を通して、江戸時代の安口の置かれていた立場や亀山藩、篠山藩からの年貢の二重免定(納税通知書)、入会山をめぐる西野々村と安口村の山論で、興味深い内容の話になりました。本年度は、あと2回(1月、2月)開催を予定しています。ご関心のある方のご参加をお待ちしています。

近づく全国大会に向けて!

= 全国伝建協総会・研修会福住地区実行委員会 =

福住地区の街並みが国の重伝建地区に選定されて、今年で10周年。来年5月の全国伝建協総会・研修会丹波篠山市大会の開催が近づいております。

去る11月23日(水・祝)には「みんなでつくる、福住の町並み保存とこれから」をテーマに10周年記念フォーラムが旧福住小学校体育館で開催され、基調講演に続くパネルディスカッションでは、福住地区から森田忠福住まちなみ保存会会長、NPO法人SHUKUBA佐々木幹夫理事長、(株)Local PR plan 安達鷹矢代表取締役が登壇。約150人の来場者を前に「福住のまちなみを未来につなぐために—これまでの10年、これからの10年」についてこれまでの取り組みの紹介や現状の報告、さらには今後の展望や新たな取り組みの構想の披露などがあり、福住地区の未来について、「夢を現実に!!」との決意を実感した充実の時間でした。

続く11月25日(金)には、来年5月24日(水)の丹波篠山市大会の福住地区現地視察コース案内ガイドスタッフ全体会を開催し、いよいよ大会に向けての実践練習に突入。①タイムスケジュール・コース(案)②ガイド・シナリオ(案)③ガイドスタッフ等の役割分担④今後の実践練習、本番型実践について協議、全員で現地視察コースを確認した後課題や問題点等を整理するなど大会に向けた本格的実践型の取り組みを進めています。



続いて、12月20日(火)に開催しました第6回実行委員会では、企画・総務・事業部会の担当項目についての課題・問題点等の解決について活発な議論を展開。着実に前進しています。

また、12月26日(月)には、市実行委員会が開催され丹波篠山市大会の全体像が具体的に提示される予定であり、今後の福住地区実行委員会の活動に拍車がかかると考えています。

丹波篠山市大会まであと5か月。

福住地区の皆様をはじめ、大会を支えていただいている関係機関の皆様、大会の成功を見守っていただいている多くの方々には、さらなるご理解、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。